

223079 永井彩心

私は、2024 年 3 月から約 1 年間を留学期間とする長期留学生として、韓国全羅南道にある国立木浦大学校への留学が決定し、2 月 28 日から韓国での留学生活が始まりました。留学生活の一年間は、あっという間に過ぎましたが、その中で様々な出会いや様々な経験を通じて、心身ともに成長できました。韓国留学は中学生の頃からの夢でした。韓国の音楽や文化に興味を持ち始め、韓国ドラマや映画を見ているうちに、自分も韓国語を話せるようになりたいと思うようになりました。さらに、私は進路についての悩みもあり、選択肢の幅を広げたいという思いから留学を決意しました。留学にあたって、韓国語の上達と異文化に触れ、心身ともに成長することを目標としていました。韓国語については、この一年間でたくさんの韓国人と交流することで、日常生活に支障がないくらいまで上達しました。また、慣れない環境で、母国語ではない言語を使用し、多くの初対面の人々と接する経験を通じて、自信を深め、成長できたと実感しています。

ここからは学校生活、学校以外での生活、寮生活に分けて報告し、今回の留学で得た学びや自分自身の変化について述べたいと思います。

まず初めに、学校生活についてです。私が留学した木浦大学は、40 以上の学部があり、多様な施設が整っています。寮や自習スペースが充実した大きな図書館のほか、食堂やジム、フットサル場とゴルフ場なども完備されています。私は留学が決まった当初は、異国で生活できるのか、韓国人の友人を作れるかどうか、韓国語の授業についていけるかなど、非常に不安で恐怖心がありました。また、初めての海外だったため期待もありましたが、不安のほうが大きかったことを覚えています。そして、学校が始まると、他の留学生や日語日分学科の生徒たちや教授の方々と会いました。非常に暖かく迎えてくださり、安心して留学生活を始めることができました。留学生活の一年間は、日語日分学科の学生たちのおかげで楽しく、不自由なく留学生活を送ることができました。また、木浦大学の授業は、朝は 9 時 30 分から 1 限目が開始し、90 分間の授業に加えて、3 時間授業もあります。3 時間授業の場合は、先生によって違いますが、授業の間に休憩時間があるため長時間座り続けるということはありませんでした。また、多くの学生が金曜日には授業がないことが多く、私たちも 1・2 学期ともに金曜日は授業がありませんでした。ただし、祝日や行事の影響で、休校になった授業が学期末に補講として開講されます。その場合は授業がない金曜日に授業が行われることもありました。日語日分学科の授業は、ほとんどが韓国語で行われ、最初は内容を理解しながら授業を受けることに苦労しました。しかし、日本で中学生の頃から韓国語を勉強していたため、聞き取れる単語もあり、さらに日本の小説を題材として授業が多かったこともあり、次第に授業に慣れることができました。また、グループ発表が多く、韓国人学生と班になり、協力する機会もありました。私はその班活動を通じて日本と韓国の学習文化の違いについて実感しました。特に、韓国の学生は積極的にリーダーシップを発揮する姿勢が印象的でした。話し合いの中で意見をまとめたり、指示をしてくれたりしてくれる学生が多いと感じました。私は積極的に意見を出すことがあまり得意ではないので、とても助かりました。

また、私はもともと人前で話すことが苦手でしたが、韓国で授業を受けて、韓国語での発表を重ねることで、自信が付きました。特に印象に残った授業は、ICT キャップストーンデザインという授業です。この授業では、班で話し合い、地域に役立つプロジェクトを企画、発表するという授業です。私たちは、木浦市のバス路線図は韓国語しかなく、バスの乗り方も日本とは異なる点があり、バスの乗り方が難しいという意見を参考に、日本語に翻訳した動画を制作したのち、動画を日本の大学のホームページに掲載していただくという企画でした。私たちは、これからもたくさんの学生に木浦大学へ留学してほしいと思っています。その中で、大学や木浦についての情報を伝えることにより、日本の学生が留学をしたいと思う一つのきっかけになってほしいと考え、バスの路線図を翻訳するだけでなく、停留所周辺の情報を含めた動画を制作しました。私たちは撮影にも参加し、日本語での翻訳とアフレコを担当しました。木浦大学の学生と協力し、高知県立大学に貢献できる動画を制作することができたと感じました。このような貴重な経験をすることができて、木浦大学に留学する決断をしたことは、非常にいい選択だったと思います。また、木浦大学での学校生活を通じて、韓国の文化と比べることにより、日本の文化についての理解も深まりました。日本では当たり前だと思っていたことが、韓国では、当たり前ではないと学びました。また、日本の伝統文化を題材とした授業に参加し、自分が伝統文化についてあまり知識がないことに気づき、もっと自分の国についても理解を深めたいと感じました。さらに、学科の授業だけではなく、韓国語を学ぶ授業にも参加しました。日本人留学生だけではなく、モンゴル人や中国人の留学生と一緒に授業を受けました。朝9時半から13時半まであり、50分授業で10分の休憩がありました。学科の授業がある日は語学堂の授業に参加せず、午前中の授業がない日に参加しました。私は独学で韓国語を勉強していたので、難しくはなく楽しく授業を受けることができました。教科書を4冊ほど使用し、TOPIKの勉強をする際に参考書として活用しました。2学期からは自分のペースで韓国語を勉強しようと考え、2学期からは授業を受けませんでした。また、テストは日本と同じように、中間試験と期末試験があります。最初はテスト勉強をしましたが、問題文が理解できないこともあり、解けない問題がありました。そのため、あまりいい点数を取ることができなかったと思います。しかし、だんだんとテストの形式に慣れ、韓国語が上達するにつれて、解けるようになりました。テスト勉強については、韓国語で翻訳しながら勉強する必要があったため、同じ学科の友達にも手伝ってもらい、一緒に勉強しました。さらに勉強ができる場所が校内にたくさんあり、勉強する環境が整っていると感じました。また、私は韓国で学校生活を通じて、日本の学生と韓国の学生に関する違いに気づきました。それは自分の将来のために大学を休学する人が多いということです。韓国の多くの学生は留学したり、ワーキングホリデーをしたり、勉強するために休学します。私は休学している学生を見て、自分の将来のためにもう少し勉強したいと考えました。しかし、私はすでに留学する機会をいただき、留学することができたので、高知県立大学を卒業した後、韓国で勉強しながらワーキングホリデーに行きたいと思いました。日本にいるときは、日本で就職したいと考えていましたが、留学して将来の選択肢が増えました。その

ために勉強し、より多くのことを経験することが大事だと考えます。これからも残りの大学生活も大切に、留学生在活が終わっても木浦大学で学んだことを無駄にしないよう、努力していきたいです。

そして、韓国の大学は学科での合宿や学祭、体育祭など、非常に多くの学校行事がありました。全て楽しく思い出に残りましたが、その中でも特に印象に残っている行事が 3 つあります。1 つ目は、学園祭です。韓国の学園祭は 1 年に 2 回あります。1 回目の学園祭では芸能人が出演し、屋台なども出店するので日本の学園祭とは違いがあり、朝から夜まで楽しい時間を過ごすことができました。素晴らしい思い出になりました。2 つ目は、体育祭です。体育祭では、サッカー、バスケットボール、リレー、ドッチボールなど、非常に多くの競技がありました。体育祭では決勝戦のみ行うので、体育祭当日までに予選が開催されました。私は、ドッチボールに参加し、日文大学の他の学部と競い、1 位に入賞することが出来ました。他の競技も 1 位や 2 位を取り、日語日分学科が総合優勝することができました。表彰式ではそれぞれの学科が順位ごとに違う金額の賞金を受け取ります。私たちはほとんどの競技で上位に入賞したため、たくさんの賞金とトロフィーをいただきました。非常に楽しい 1 日でした。留学したからこそ体験できた、とても貴重な思い出です。3 つ目は、学科の合宿でソウルに行ったことです。私は初めての韓国で木浦に行ったため、ソウルに行ったことがありませんでした。東京のように人が多く、木浦にはない多くの場所を観光することができました。ソウルまでは高速バスに乗ると 4 時間ほどかかります。ソウルでは日本での就職をサポートする企業があり、その企業の方のお話を聞き、そのあとは自由時間でした。合宿は 1 泊 2 日でしたが、私たちはソウルでいたいことがたくさんあったので、先生に許可を取り、翌日に大学に帰るバスに乗らずに、3 泊 4 日でソウルを観光しました。ソウルでも新しい経験や交流をすることができました。このように、韓国での学校生活を通じて、多くの貴重な学びや成長の機会を得ることができました。私が想像していた以上に充実した学校生活になりました。

次に、学校以外の生活についてです。大学の周りには飲食店が多く、ダイソーやスーパーもあるため生活に不便はありませんでした。また、韓国人の友達が積極的に交流の機会を作ってくれたので、充実した日々を過ごすことができました。お酒を飲みに行ったりすると、日本を好きな学生たちが声をかけてくれたおかげで、他の学科の学生とも仲良くなることができました。韓国には想像していた以上に日本のアニメや漫画、文化に親しんでいる人が多く日本語を学んだ経験があるという人が多くいました。さらに、日本に何度も旅行に行ったことがある人や、日本が好きだと言ってくれる人もたくさんいたため、日本人として誇らしい気持ちになりました。他の学科の人たちも日本人を歓迎してくれて、とても感動しました。韓国人の友達に、こんなにたくさんの韓国人と交流して、友達になっている留学生を見たことがないと言われるくらい、たくさんの友達ができました。留学に来た 1 年間で悔いが残らないように学校生活以外でも様々な経験をするという目標も達成することができました。さらに、学校の周りだけではなく木浦市内にも遊びに行く機会が多くありました。木

浦は学校からは車で 20 分と少し離れた所に位置していますが、観光都市で海が近く、タコなどの海鮮料理が全国的に有名です。観光地だけではなく、大きなマートやアウトレットなどもありました。そして、木浦市だけではなく、通学バスに 1 時間ほど乗ると、光州市という木浦市よりもさらに大きな都市に行くことができます。光州に行くまでは少し時間がかかりますが、都会で多くの観光地があり、歴史的な文化行事や様々なイベントが開催されています。学校の周りだけではなく、他の地域にも訪れ、韓国の文化に触れる機会がたくさんあり、有意義な 1 年間でした。また、大学のチューター制度により、韓国人学生が学習や生活面でサポートをしてくれました。お昼ご飯を食べに行ったり、カフェに行ったり、テスト勉強を手伝ってくれました。チューターの学生はチューター 1 人につき日語日分学科の学生が 1 人担当してくれます。このチューター制度では、学生たちが私たちのために計画を立ててくれ、勉強したり、様々な場所に訪れたり、文化活動をするによって活動費が渡されます。チューターの学生のおかげでさまざまな文化活動や観光地に訪れることができ、韓国の歴史や文化について深く学ぶことができました。留学生にとって非常にありがたい制度でした。

最後に寮生活についてです。寮では、他大学から留学してきた日本人留学生と同室で生活しました。6 人部屋の中に 2 人部屋が 3 つに分かれており、シャワー室が 1 つ、トイレと洗面台が 2 つある広々とした部屋でした。6 人で同じ部屋を使うので、全員で費用を分け合いトイレトペーパーや掃除用具などを購入しました。また、寮は門限が 0 時までなので、1 分でも過ぎてしまうと寮に入ることが出来ません。門限を過ぎた場合には管理人に申請する必要があります。門限を破るなど、寮のルールをいくつか破ると、退寮しなければなりません。しかし、試験期間は深夜まで図書館で勉強する学生が多いため、門限が緩和されることもありました。また、寮には食堂、コンビニ、コインランドリー、ヘルスジムなどが揃っており、寮から出なくても生活ができるくらい充実していました。部屋には家電を設置することができませんが、下の階に降りるとすぐに洗濯することができ、ウォーターサーバーや電子レンジもあるので、不便を感じたことはありませんでした。私は初めての集団生活で不安もありましたが、韓国語についての質問やなにか聞きたいことがあれば、すぐに質問でき、暇なときはみんなと話すこともありました。困ったときはお互いに支え合いながら快適に過ごすことができました。

このように私は今回の木浦大学長期留学を通じて、語学力の向上だけではなく、と自分自身の大きな成長を実感することができました。将来についての視野も広がり、貴重な経験を積むことができた 1 年でした。この経験を今後の人生に生かし、学んだことを無駄にすることなく、さらに努力し続けていきたいと思えます。非常に貴重な忘れることができない 1 年間となりました。

木浦大学 2024 年度長期留学最終報告書

